

韓国の大学生ら県大と交流

高知市池 コロナで4年ぶり



交流を楽しんだ日韓の学生たち
(高知市池の高知県立大)

大学院生のパク・ソヘさん(24)は「(県大の)学生たちが住民の声を聞いて社会福祉の活動をしていてすごいと思いました。好きなKポップとかアニメとかを話すことができてよかった」と笑顔で話していた。

(松田さやか)

韓国の慶尚国立大社会学部福祉部の4年生と大学院生28人が24日、高知県立大の社会福祉学部(高知市池)を訪れ、県内のボランティア

活動などを学び、学生同士の交流を楽しんだ。

県大は2016年、慶南科学技術大(21年に慶尚大に統合)と国際交流の協定を締結。教員や学生らが毎年のように行き来していたが、新型コロナウイルス禍で休止していた。対面での交流は約4年ぶりという。

県大の田中きよむ教授が、県内のホームレスやDV被害者らへの支援、学生参加型の地域づくりなどについて講義。NPO法人「地域サポートの会さわやか高知」の三谷英子会長は、高齢者や障害者らの外出、ペットの世話など日々の困りごとを手助けする有償ボランティアを紹介した。

両大の学生による交流会ではスマートフォン翻訳アプリを活用して好きなファッション、食べ物などについておしゃべり。慶尚大